

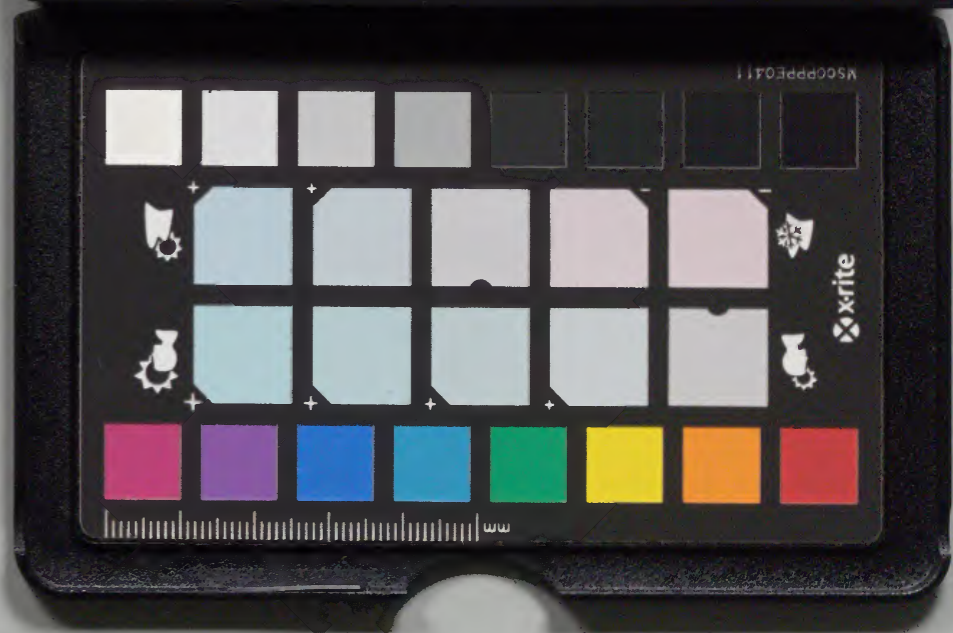
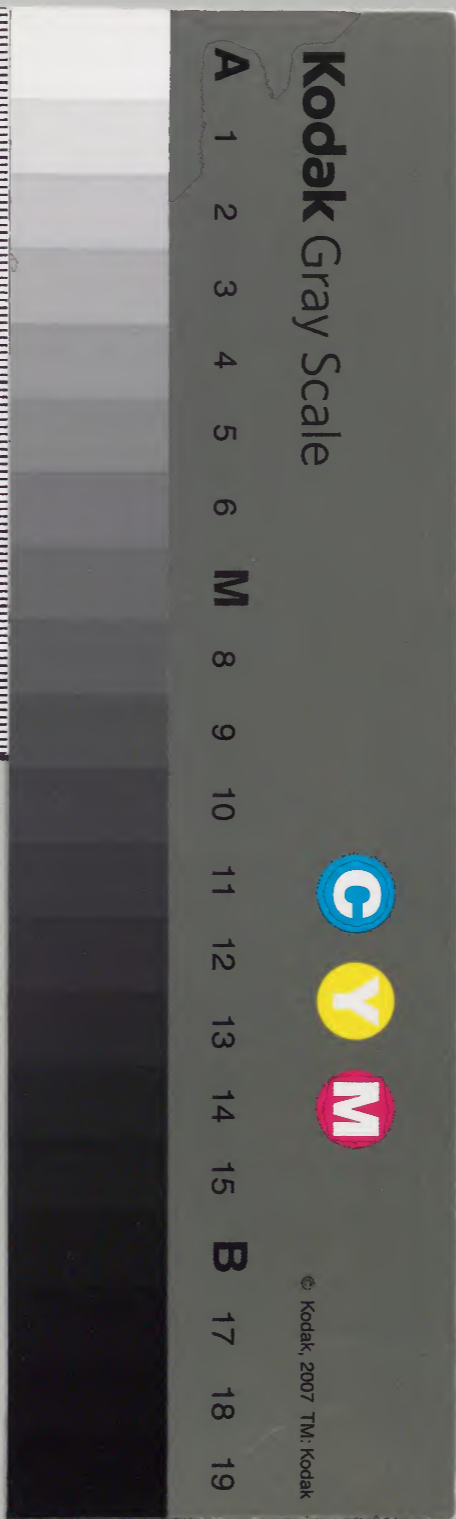
小笠原高紀事 六

二十

和書門			
三	二	三	三
冊	架	函	號
三	二	二	三
冊	架	函	號

內閣文庫			
七	三	三	三
冊	架	函	號
七	三	三	三
冊	架	函	號

內閣文庫		
番號	和	3774
冊數	33 ( 20 )	
函號	173	179

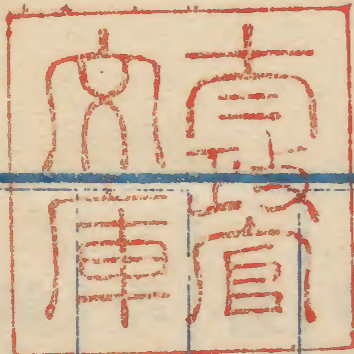


小笠原高純事卷之十八

目錄

○小笠原高純上

門  
務  
省



小笠原島紀事卷之十八

目錄

○小笠原島風土記

明治十五年

司務當

内務省

小笠原島風土略記

小笠原島風土略記

小笠原島ハ伊豆南海中ニあり一叢島也英國  
 織<sup>録</sup>威偏東百四十二度十五分を於此諸島の中  
 線として北緯二十七度十二分より迤南二十  
 六度三十分までの間ニ散布に大小凡て八十  
 餘島ありや以へて七父母兄弟姉妹の外餘五  
 六島ハ拾して名付へき此諸島の餘ハ皆  
 礁石乃海上ニ聳へあるものなりして島といふ  
 こと豈らに昔時文祿二癸巳年朝鮮陣帰乃於此

西曆千五百九十年 信州深志乃城主小笠原大膳大夫  
 長崎の嫡孫にして民部少輔貞頼といふもの  
 烈祖乃麾下に属し奉り東歸乃時初免て此意  
 を見出し其繪巻物を献せしむ烈祖大に  
 之を感賞ありて永と領地を下しおのこ其地を  
 在るに貞頼の姓氏を基き小笠原島と呼ぶに  
 へきと知上意あり其子民部長直乃代迄を傳  
 へし由かれとも海路の險遠ありしより  
 也又ハ海外通航の禁廢ありしより嫡を継ぎ  
 りよ也中絶し及ハハ延寶のまに紀紀州よ

り密相を載せて江戸に航すは海上颶風を  
 遭ひ南方に漂流して此島に至り後ハ便風を  
 得て内地に歸り事を洩て畫と其状を具して  
 是を官府に訴へしハ官遂ニ再ハ開墾をへ  
 きの議ありて長崎のものにて島若市左衛門  
 といへるもの航海業針の學子多きたれハ  
 て其操子膺りて航頭を兼ねりて其子回苗方  
 郎左衛門江戸小網町の大工にて八兵衛とい  
 へるものを乗組を中尾兵左衛門と名乗  
 と也新ニ唐製を擬して製造せらるる國書

既也号与分五百石後の官船に駕し同三年  
 閏四月五日下田より開航し同月廿九日回島  
 子着し在途凡て一ヶ月余りして所々巡視の  
 上物産土宜を採索し吳芋奇木を伐取り船後  
 し  
 大神宮を初詣し鶏五羽放ち至六月五日を以  
 て彼地を孝し同十二日下田へ着航し其分後  
 命をしく再び何の沙汰もなくて事をさし  
 て沮ぬ其海加乃氏部長直り孫子て宮内貞任  
 堂へ入るも乃其祖先の故を以て海海之義相

頼享保十二年手船仕立見届へきの免許あり  
 て大坂より船を仕出せし中逢覆溺せし子  
 也海國を以て其他海船の難風を遙以て南方之  
 ありき處に漂着し年を經て帰國するものハ寛  
 文九年十一月紀州密相船の船頭長左出づ享  
 保三年六月遠州萩井の船頭善八天明五年正  
 月土州香我見郡東岡村船頭儀七何事も口供  
 子よるに大同小異ありて多くハ此島の一部  
 子着せりも乃其覺ぬ儀七の口供中子噴火  
 山ありて燒砂を噴出せる事あるハ猶その他乃

島國あり也覺來者一追之天保十年十一月  
 奥州氣山郡船匠三之丞等漂流して翌十一年  
 三月下総へ帰着せし事あり其口供よりるに  
 島人の言語英語を用ひて住宅舟楫等の事  
 至之此處に相違なく聞へぬ然るに西洋各國  
 よりハ彼曆數一千八百十七年我文化十四年初て此  
 島有事を知悉す由ウ井ツトカムプ地理書中  
 に見申述とも其捨出せし人を記を以て二十  
 七年我文政十月英國の官船ブロスソムの甲比  
 丹ヒイキエ一此島より多り其港の深淺島々

乃位置等を測定し是を英國の所領と定免具  
 由を銅版に書記し樹上に釘固し國旗を以て建  
 置り蓋し此時既に福住をるものありしと見  
 由土民の云ふ事によふに三十年を以て初る  
 此土にまゝり此地を創闢せし彼理記行中ふも  
 此とビイキエ一の國旗を建しと云ふと至右を初  
 く人あき事と思はきに事案如何不審右を初  
 せし我國の甲比丹リエツケも此處に到里  
 本國の所領とせん事を計里し由あきとも其  
 年月詳あらずに彼理記行中二十八年と有  
 なる後千八百五十三年北米利幹合衆國海軍

都督彼理に至り初め此島の全勢を巡視し島  
 民を集免約束を定め其國民の勇了福任を分  
 むのセイボシを立て此島の頭目とせり南洋  
 此島の名初免プロツヒス島と唱へしは是  
 班牙の名なるよしよて今全く其名を用ひ毎  
 り是班牙語を初て名をよしは是班牙人乃  
 を考ふ事 英國のビーチ工一者フランシスへ  
 あたまた 英國のビーチ工一者フランシスへ  
 リや名付ありしをいかれとも今古是内の一  
 島の名よ乃み残るて此方よて以へる母島を  
 乃みべーりー鳴と稱呼せり又ボニこと唱ふ

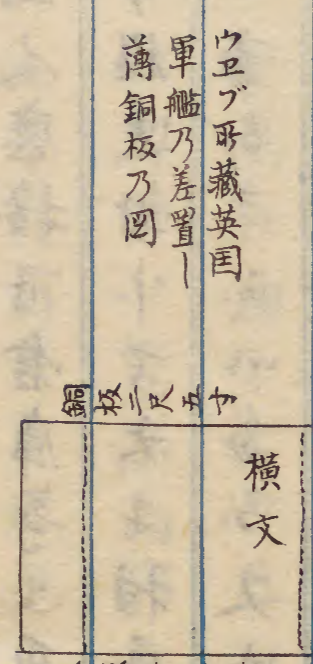
此方の倭間よて人あき嶋あふを以て無人  
 島やよひしを訛稱きあふて漢人の波寧と考  
 せらるハボニンの音譯ありし

一洲崎村古名あり父島二見港の入口東の方子  
 ある英國人稱してチーフウイルレーヂとい  
 ふ即ち最要の村あり以ふ義あり此お西南大  
 洋よ向ひ西ふ野牛山への淺狭の海峡を隔て  
 相連せり落潮の時ハ歩しては遠くへ一南方  
 ハ數箇の海湾ありて南海よ至りて遙く母島  
 と相望む前ふ群島あり西ハ振分山を隔て



扇ヶ浦に接し旭山下に至りて奥村に構へ都て港灣を治ひて大村と相争む今英人のトマシアツチウエフ家子住居に最早外國人の此路より進出するもの皆此村に居を占ひ、後進々名おへ引分進しとり云傳ふ西洋紀元千八百二十七年英國軍艦ブロスウム指揮役エフトブリエー、ビーチー其第六月十四日を以て此地より来り英國所領と定むる旨木板に薄洞板を張りて其上に鏤免し、この今程ウエブの家子所産し且當時の測量図をも獲たり又全人

乃活しを聞ひ其時英國旗章を以差置る裏手に乃山上に建ありし、年久しそ風雨の爲に破烈せりと



横文和解  
頼利太尼亞王殿下の船ブロスウム船長エフトブリエービーチー  
千八百三十七年第六月十四日頼利太尼亞王殿下第四代のチヨリチ  
叙り代りて此諸島を領せり

一扇ヶ浦 大港西南の方第一灣之あり要岩あり大村清瀬と相対し平岡連直して後乃方丸山鑄山に連る土性赤墳を以て免英國ジョーチホーツン家子居住し海濱に今程古屋二棟廢

圃或百坪余何り今度皆買上におりぬ洲崎村  
より振分山を越え家に至る凡七町半此地地  
も清瀬と相習し左の方二見港之入口を望み  
前子小湾ありて船付宜しき處ら後所築二外  
國人應接所倉庫等も取建福民の家屋も亦十  
宇程連軒して大子村落をおし終夜人聲の絶  
る事なきも以多る又此際開拓の熱意を誌せ  
る石碑を也此字も建多里長文も曰

小笠原路新むりの記

伊豆乃西子八丈乃路の南北緯二十七度六

、乃へめみやちのむんあり四度二十七分  
子ありてひろきせきせきせきせきせきの急あ  
りしを

東照に神と祀也乃おん時文祿の二とせむ  
以ふ子小笠原民部少輔貞頼みゆるし如う  
ふ里てあたり於免しとり此島永くあふへ  
しきて小笠原島と以ふ名をえたまひたり  
たりさきと波路乃以とあらあきかきも何  
里事むいつしり激里かふ事もあく那入  
子よりしを其後享保十三年子かの貞頼の

後ありける宮内貞任とちし申出ひて亦さ  
らに渡りたりしうき世の如くハ相国や  
さ海もも海とハき去るやとおハしま  
事むさしてきはくし世に侍もめもあつて  
あむやみよし世もくわくるを那色道よハ  
阿達ともをやとりひせ乃くみハ一もあ  
ぬをいこつろよきそ乃阿ふんハ風波  
ちちしきわ毎半をゆきかふ船路乃多より  
もよろし可くさ免れハいりて此年ハ松こ  
たる事おく新たり世ふと相きてさせたま

ひて水野筑後守忠徳のぬし服部帰一帯純  
乃ぬしらに此事乃をちくはうさく世た  
まひぬ志うあふによりて此みつらひ乃く  
こさお也志と去き仰志とをわしきみハ  
喜み也可子船ち世ひして願うるともつな  
をやう進んや解りかき進ハ此志と以と  
ま務臨ふた免しを沖津島根乃石子ききみ  
まや志しあへし世く免たまひつ多へ多  
ハむと阿ふ志と乃よしを文久元年十二月  
乃はし免よかしまりうけ多まハりて思

河主水春村志る也

一北袋澤村 洲崎村の東山間乃廣地あり川ありハツ瀬川望み水涼久岸潤之中十四五月もあま里船楫を通さへし本橋第一の河流あり西南海口より白砂中より伏流を地高山の間より川の方を所至ハ寺町半位ツの平地あり地質黒植頗る耕耘し宜し然も亦も亦より在る外國人の言を聞て夏秋の際大雨の折を山々の溪流一時も急来りはる作物を押し流さるやありと

予は地子に島前後三年然るに大雨降後

了出水の災一存も免へばおもしふ子當島ハ驟雨多くしと忽ち時出水の害至る少し

猶桑村住居の亜米利加人セイホシ又ウエブ所持の畑地あり悉く澤芋を植也英名廢屋二棟あり今奥お子任ちふカナカ人シエーク乃任ひし季かり彼理紀行中子ベヤルトテ口ルが案内者也頼こしもの乃みて亦時ハ猶此子存在しや見ゆ

一ハツ瀬川洲中子椰杉二棟あり元ノ海口より廢屋二棟畑地數百坪あり此等大村住居の英人ヨロイ今ホーツン加カナカ人より譲り受所持

せらぬもの乃子して今度皆買上多り是地  
 の耕耘に宜き土性のあふを以て福民を任  
 じ免んはハ最要の地あり一との儀子  
 あり是地は福民海来乃海耕作い  
 ことさし子麦并ニ大根野菜乃  
 取大ひよ出来多り此地海崎  
 村より凡十五町餘あり八ヶ  
 字の溪流最合ふ故に名づく

一 振分山 洲崎おの裏子あり  
 同村より扇ヶ浦袋海への  
 通路此山下まで分取道程  
 四丁集一長谷 北袋海  
 ありたる道にあり茂樹陰替下  
 流ハツ瀬川より入

一 常世瀧ハツ瀬川の上東子  
 の山ふ高き瀧也乃傍に橋あり  
 一 野伏間谷ハツ瀬川の上  
 七八丁より一て南山  
 迫るまに至る高き十餘丈  
 直立壁のこや一若石皆龜  
 甲紋をあせり此溪間樹木  
 修翳して日光を見る事少  
 一 大幅橋群居に翼三尺餘  
 におよぶもありべし樹多し

一 時雨瀧 野伏間谷より  
 あり中五六間高サ十間  
 條もあり一絶崖上に平流  
 一 水織糸乃如く飛沫乃子  
 人衣を沾に瀧の名を  
 得る事あり

一布瀧 八ッ瀬川乃源かり時雨の瀧數十歩  
あり高サ十間餘一筋ニ下注也

一南袋澤 北袋澤と里山を越る南子阿里地  
形粗たふしくしてやくき海一又流水あきとも

八ッ瀬川乃大あふ子不及海口に唐屋唐畑  
あり以てウエブの住居を以て也地味<sup>北</sup>袋澤と

同く耕耘に宜し海濱西子平砂あり里に北袋  
澤海口の方子通を以てとも海岸絶壁あり

生来古へうらに前子一つの岬あり饅頭崎  
といふ

一南崎 此崎全島の南頭子あり遙子母島と相

望む西の方稍平坦の地あり海岸の山尾に  
石嶺を舎免り崎の南小島敷を不知岩石皆

戦を束ねたるりめと遠近に敷布を以て様眺  
る尤よろし

一野牛島 洲崎村の南子あり里を浅峽を隔て本  
村と相連る前ハ大洋に里を後口ハ大港の湾

子像免り全島石山にして野牛多く住居北の  
方山下に大洞あり洞三ヶ所にして洞中船

自在あり高サ五六丈あり一彼理紀行中

子繪圖をるもの此まあるへ一山あり状  
 ち円堆形をか一四望皆同状にして入港船の  
 目高とさる子よ詠一今飯盛山と名付く西人  
 是をシヲカロフと呼ぶ即ち糠餅の義子一  
 て亦其形状よと述るあるへ一  
 一 礦山南崎の赤土海岸にあり山岸缺崩甚内子  
 礦石を出る亦白土あり質甚た重として粘賦  
 あり亦硫黄あり在遠の外國人の鑛礦あり  
 一といへり化学家の説よるに硫磺礦あり  
 一といへり此山と東北の方數里の冨皆絶壁子

一 一て劍峯あり

一 千尋岩 南崎の廿町程東の方子一て在遠の  
 南海岸也高サ五六十丈の絶壁断崖子一て人  
 跡乃至り難きま之海もまた急急海岸第一  
 深きまよて潮流殊ニ烈一と稔和の日よて洋  
 中平波の折とて此所ハ激浪猛波子一て廻  
 島の首冠難の多也  
 一 丸山 扁ヶ浦の後子あり西の方鑛山と對  
 一 鑛山 同くサレ北よあり東丸山と對し扁ヶ浦

より巽港に到る道は山の間を經過し松の  
大樹へゴ多し

一連村谷扇ヶ浦に流る出る溪流の源あり樹木  
繁茂し枝葉相連せり

一桑村道扇ヶ浦と桑村と通する山道あり凡そ  
十九町余あり

一巽港道扇ヶ浦と巽港へ通する道あり途中一  
狐岩三見峯等ありへゴ松葉蘭葉の大樹多し

一凡そ里半程あり  
一象鼻崎 洲崎村北岩津海口との間に有る出

崎あり石門あり古き文程中々文餘も所分  
へ

一桑村港の桑にあり西と清瀬川に到りて大村  
と接し東は隈浦と下洲崎村と隣る海濱白砂

ありて港深き風當も強うらに波高と穂  
あり亞米利加合衆國乃人子サ子ルセイホシ

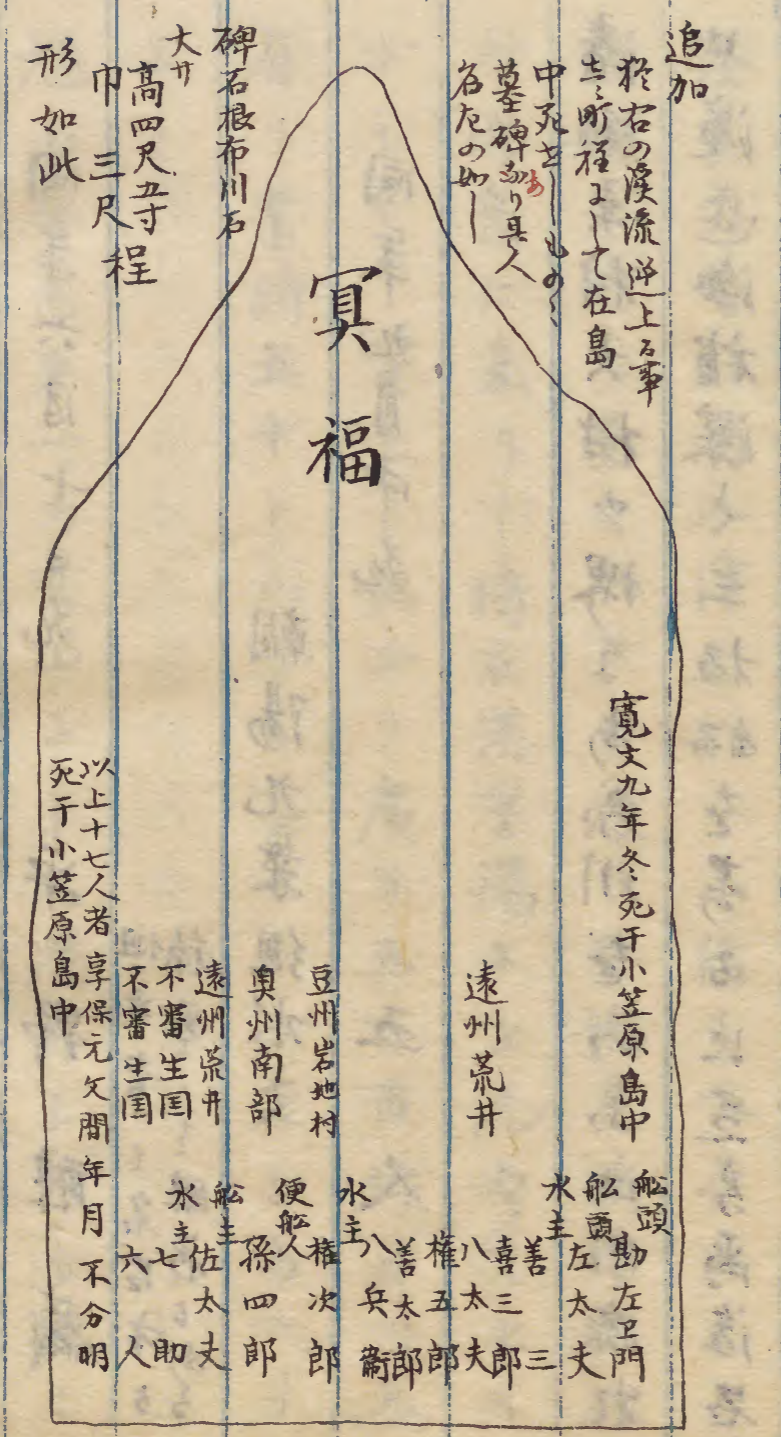
此地に住む彼理紀の中子載る享命初此地に  
来りし外西民教員の寺人よりて貯財娶妻の

後ち賊子劫り此に事ありや此に人あり現  
今全崎の頭取として彼理の取極し島民條約



并小名衆園乃園築を以所指し居きり外カナ  
 カ人のジエーッ同居に至くセイボシの奴隷  
 あり感臨船着島の後家初此地に任役所を取  
 建し、地勢不便を以海崎村の方へ取違へき  
 子治定せり  
 一眞福碑桑村セイボシ乃家屋東の方と一ツの  
 溪流有り道上る事数歩子一ツサの平坦の地  
 有り昔年漂流して此處に死亡せしもの、眞  
 福墓碑を根布川の石に彫刻して建ふる具形  
 ち如左

内 和 書



感臨丸乘組士官測量方  
 土井大炊頭家来  
 文久二戌年正月廿七日死  
 西川信太郎

内 和 書

越後国蒲原郡村松濱百姓

平野彦彦所持船乗組

同人弟

同年六月七日死

平野醇藏

但平常之名臣市与  
称墓こそ解るある

朝陽丸乗組水夫

同年九月中死

五人

一清瀬桑村大村の堺にあり川をいふ此川流れ  
口濱迄海稍深く三板船を寄るに足分尚後石

炭具外等外國入津の船より給きへきものハ

此地に貯へ置くへきの残り目論見あり彼理

の此島に乗りし時石炭置場より人等とせし

ホレとり買上し地あり廣サ五六百坪斗りル

有り當時五十トルラルをセイボレと与へし

よし

一旭山を急第一の高山にして港外よりも能く

見ゆ感懐隘着島の坊首やして國旗を此山に

建たり此子太の名あり

一初森山堺浦の裏手乃山を以ふ

一初寤浦奥浦の裏手の浦より浦に添平岡あり  
里のまると閑壑を以て椰樹を採あり

一夜明山初寤浦の上の山をいふ

一巽港英名ハーストストベイ即ち東南港の

備之港口二三丁位あり八九町もあり東北の

風を降くの外に波甚た高からけりてスウ子

ル船位ハ碇泊し得へり船れとも港を只一條

の流き何ふのみより平地なく且あるとも

絶壁の岸あり耕潤する地あり椰樹あり

一釣濱宮の濱に備えて奥村の裏手に有海岩

石多く岸際より魚類多く何つまり石り垂

釣子宜しなり名あり

一奥浦桑村洲崎村の場之流水あり沙地頗る廣

しカチカ人住居の跡あり家鴨あり畜いせり

おしのかま指しり文之二戌年七月中亞米利

加の衆國乃鯨鯨の組あり佛原西人此嶋

乃民たらん事を希望し此地をせりおしより

買取て居を占ん事を願立しより呈訴したり

此島の鯨鯨の術は長多れり同年十月十一月

頃雇ひて陸田に入来る鯨尾の鯨を獲せんや

て移民等も其術を学んて久回三交年暮夏  
の月中濱方以即官許を以て蘇羅船を仕出し  
来り此ものを雇ひ近海お以て或處を得て陽  
園をり且又此浦の濱水多くして汲取子便ふ  
きハ入港船の畜水も此浦を水取場と定て汲  
入たり

一 大村大港乃西岸よりして海に沿ひ平地を廣し  
お國人耕闢居住をふもの此村を第一と以今  
英人ジョーゲホーッソ、ジョセフアレシ、ウイ  
ルレムゲレ葡萄牙人ジョングラボー其子ジ

ヨーゲアラホー各家屋ありて畑地を括たり  
カナカ人へパシ家屋ありといへともセイボ  
レ持の畑を耕し居たり此地集ハ清瀬川を隔  
て桑村と接し裏手に官の濱に至りて桑村と  
界ひ南に海口ありて海崎村野牛島と斜に  
相對をあり一岩あり鳥帽子岩といふ  
一官の濱白濱よりして平野も有り清瀬川を越ふ  
ては東に延寶年間

大神宮を勧誘せし旨記録あり也北見島  
と一海峡を隔てお對をり此峡底よりして島

山乃間子狭す分頗分風を避へ一―大船も皆巧  
ハ碇泊し得へ一

一三日月山大村海子の山あり岩石子して燧石  
多く有り香氣何分枯樹を多し

一兄島古名也父島の附属乃最大崎子して父島  
の北子あり其の濱と相別凡そ間終子十町子

満ちて南北一里四丁東西七丁周廻四里  
五町程あり周廻皆絶壁子して其のへりし

唯南の方東嶺と斜子相對き方子沙濱あり  
て船をよけ通しといへとも浪高きれハ浪

危候ありへ一―二條の流水ありて海中子注る

り巡見の節後、初と此地子野傳を―を以て  
野傳ヶ濱と名附ぬ此島山子連りて平地あり

耕墾甚通―英人稼―てホウクレンといふ亦  
牛馬やも唱ふ

一見返山嶺内乃最高山子―て此子登る時ハ又  
嶋を一里子長き通―故子名付く山の北子小

添ふく平高の岡地あり耕闢甚通―野牛多く  
住免り

一瀧乃浦古名之兄島の西海岸子山崖ハ海子為

不瀧ある故に名づく瀧口より流き下りて  
登るへしといへ共海濱岩石多くして甚だ候  
阻あり古記に金砂ありし見ゆまじと云今其  
跡あり

一弟嶋古名あり兄嶋の北に連り父嶋を距る事  
一里余あり嶋内悉く岩石よりして海岸も亦砂  
濱あり南に一里強東西二十丁強周囲三里  
弱英人志欲ステ一フルトシヤハ又豚嶋と  
呼ぶ

一東嶋父嶋の東にありて初麻浦の前を流り  
相距る事半里強南北二十一丁強東西又同一  
周囲二十九丁半島内稍平夷の地ありといへ  
とも周囲岩石高く聳へとも船多りとも奇を  
あり

一西島兄嶋の西にありて父嶋大村の後にあり  
父嶋を距る事二十餘丁島上平地ありて赤土  
あり嶋民曾る耕闢する者ありと見え畑の  
形ちをありとも頗るあり樹木少く岩石も  
多うらに南北七丁強東西八丁強周囲二十八町  
一南島古名袋港島といふ父嶋南岬の南にあり

相距る事十丁築島内悉く岩石よりして絶て樹木を生ずるに全嶋皆麻角の如き石よりして堅牢あり亦石乳の垂る事も有経一町程の池あり終り一渠を以て海と相連せり往時全く一池あり一々地震の震にても何りてさけてお連りしものやおもむき是即所謂懐港那り夫より岩石を越る事数歩よりして周囲之内砂原ありて二池あり其一池を狭隘の内よりして激浪をかき是岩下海に通せざるや見内魚多くして深さ計り難し亦一池の微波も生ずた實に古

池あり砂上岩石とも潔白よりして積雪の如く全嶋中第一の奇石といふへり南に十一丁強東西四丁強周囲二十五丁半  
一北嶋弟嶋の北東に當りて周囲十丁程もあふへり周囲陸岩よりして登るへり全嶋皆岩石あり

一母嶋古名也父嶋の稍西にあり英國線威編東百四十二度九分北緯二十六度三十七分十秒ふ當り父嶋を距る事十三里餘南に四里東西二十七丁周囲九里は嶋樹木多く繁りて父嶋

の岩石多き如くあり地味梅藝よよ詠  
とつへとも私を繋ぐへき港少きを以て住民  
号も父崎と云ふ西人名称ベリ島是也  
一沖村古名也母嶋の未申あり英人ジエム  
シマツレニ此子居住マツレシ初免父嶋海  
崎村子居住別段畑地も所持あり西  
洋子ハ百五十七年此所子福住と由を  
英人三人此地に在りマツレシ福住の後  
皆立去る亦子ハ百五十三年亞米利加軍艦

西  
和  
省

の遺り置ある文書あり同人の話に此村方  
後の山手に聖文字を鐫免し石碑あり  
子居住する英人其本国の軍艦子也米利幹の  
軍艦子也米泊の積載を指さし免し由云  
り定免て我國漂流の石塔あり此もあふ  
也將古記中  
大神宮を此地に勧請せし由もあふ或は其  
旧蹟あるも測り可多し

銅板に彫刻有之横文和解  
此南方諸嶋を既し合衆國軍艦プレマス

号解

内務省



指揮役がヨングレ人并ニ士官等コモドール名役ペルリ名人の率子従ひ北亞米利加合衆國之考子巡見之上是を領事

千八百五十三年第十月三十日

一同港内狭小且ツ暗礁多シテ大艦を泊る事能ハレ村内流水何リ此港ニ注ク此港ニ灣子分キテ一ハ沖村の考子灣圃一ハ昭濱の考子灣圃に磊石多く小船を泊ル事多ク故子諸國の船舶此ニ来キルものも多クハ此港の升南の方五六丁或七七八丁の間に

下セリ感臨丸も亦有リ

一昭濱沖村港の南手に在リ沖村の昭子島分を以テ名を泊たり海濱磊石多く船を泊ル難クヤハ一とも山足頗る平地あり既に開墾シテマツシシの所持ヤ水レリ此濱段多くあり来るを以テ又篠ヶ浦とも名付く

一南岬全島北南端子あり  
一南浦南岬の東手にあり海水灣をおして前子  
一小島在り頗る平地ありと一とも海濱磊石多く風浪烈しく且海峡潮勢鋭きを以テ船

を考る事何と云に

一 小富士山南浦の稍東海水一曲折せふ所あり  
り山形略州富岳子彷彿たり此山と東子桑子  
いたきを樹木生茂りて山氣岑鬱たり野伏間  
多く住光り海濱子下きハ藤九郎鳥名多し

一 西浦島の西子ありて山裾平地あり海濱磊  
石多く大洋子向へるを以て浪蕩強く船を寄  
る事可ぬ

一 三角岩形を以て名つく南の出岬子あり

一 乳房山金嶋の高山あり沖村西浦との間子あ

りて東の海岸の方子偏立せり四望皆回十く  
形ち乳房子似たり海舶の此に来きふもの皆  
此山を望みて準を取へし山高さ則四百二十  
六尺樹木頗る繁し

一 鋤先山乳房山より南山を隔たり南子沖村の  
方子偏立する山よりして片面僅子叢木を生  
じ此山沖村港々望む形ち鋤先子似たるを  
以て此名を得たり陰阻よりして攀躋甚へり  
に

一 東岬島の東に在る島の東側悉く絶壁より

て海灣をあたるといへども船を寄らば通き地お  
く亦閑壑すへきまも物し併し絶壁の肩に野  
芭蕉椽欄等間錯叢生する挿海上を望む  
子画図如く子見ゆ

一北村崎の北に子島を今新島と名を下せ  
り海濱磊石にして平地頗る廣く閑濶さへし  
外国人のあつた地子居住するものあつた亦閑  
濶さしものあつた然れども父島へ往返する時  
ハ此島より山越へる沖村子越く事を待且つ  
島民野猪を獲るを為屢し往返する由ありて一

條の経路を開き有此道九二里半此地溪流有港に注

く流き細水とつふ共水を頗る多し  
一同港島内第一の好き港脚あり港口正北に向

ひて恰も父島南岬と相對す口廣さ二十餘丁  
桑行もまた同し此港桑子玉り三湾あり二湾

ハ港口に對して一湾最大なるもの屈折して  
山間子回湾し正に水村の南に當り此湾内

海水深く且山勢曲折を以て湾口より是  
を望むと見へる程之故に風を避るに便を

り二三百噸の船ハ碇泊する事を得へし

一 乾岬北村港の口乾乃岬をいふは岬海に出る  
事十丁餘南岸とも絶壁よりて登る事阿とハ  
に

一 兜岩乾岬乃前は在西人の称はるる鬼岩乃義  
あり凡そ形ちよりて名付る事也

一 片港古名也全島の東手にありて山を隔て北  
村や腰濱の形をあらり即ち石門岬より北乃

出岬との間よりて一海湾あり海濱石門より近  
き方悉く磊石よりて北よりまき馬方稍平沙な

り然きともクスノの船の舟小艇といふやん

湾口大洋に向ひ浪高漲きゆへやる事阿とと

に此地より北村より續き十餘丁の字平高の岡  
地あり悉く開闢すへは港溪流数條ありて

流出は始先マツレシ同居人アレシ父島より  
此地ふ来りしよりてク子一船を此より去るを

上陸の上平沙上より小産を取修補ひ五七日滞  
留病を帯ひし由云り此地海岸山上よりへと

も椰樹数株あり此より西浦より連りて山中林  
木多く山猪多く棲り亦西浦系奇山谷あり入

ゴ多く生しへて谷と名付る事阿と

一石川岬片港の南岬あり石川あるを以て名付  
く石川三門ありて門内三叉をかし海潮吞吐  
すふ様殊に奇絶なり

一姉嶋古名あり母嶋の南に在り相離る事或里半  
南北十六丁東西九丁周囲三里十或町餘母島  
周囲に在る島々乃内最大之一島あり四方絶  
壁にして登るへうに且北方より以聊沙溪  
ありとつへと風浪多き船を寄事阿とハ  
に且濱に桑行なく直に壁青山を水に耕墾に  
もあし可たわらへし但し樹木は生茂せり

一妹嶋古名也母嶋の南稍東に在り相離る三里南  
北十五町弱東西六町弱周囲一里六丁程姉島に次  
ぐ嶋あり島乃形勢姉嶋に同し

一姪嶋新たに名付る事あり姉妹島に連りて於  
其東西に有り母嶋を距る事三里十六町餘南に  
十四丁東西五町弱周囲三十五町計り形勢日  
亦同し

一平嶋新たに名付る事あり母島沖村と姉嶋と  
の間にあり沖村を距る一里十四丁南北四丁  
東西十丁周囲三十丁程北の方より白沙濱あり

十五間程あり所を寄へし山上悉く平地にて耕潤すへしと雖も水多く且風常強きを以て住居いふ可たかるへし島内東北側海濱子安貝多し此島へは在留外國人とも始終往還せしと見え山上焼痕多し此島より沖村に間鯨魚生來する事夥しく且島内野羊多く棲り一二子嶋形を以て名り家小の島あり沖村が海上にあり

一丸嶋右子同一櫻頭島とも名付く

一向嶋沖村と相向へるを以て名り沖村を距る

一里六丁南北十五丁東西八丁圍圓寺里十町條島内過す元山子して四方岩石多く東側沙浜ありと雖も風波烈しく所を寄へるに地形見の奇強し所を寄へる山上にも攀踏し其地形を極し耕墾すへきを見へる

草木禽獸蟲魚乃概略

一サツマイモ薯蕷何り島夷是常の食として専ら造る其畑穢封の如く二三尺盛出子して若芽を具封子狭くおけは六七ヶ月を経て大廿六七寸

廻り八九寸程乃薯<sup>薯</sup>を三四根あせり是二月以  
 下り八月以きて植付をふに味ひ内地の瓜と  
 異よりて淡白かり長芋と薩摩芋と此間よりあ  
 り尤多く造り食用の外入港の鯨漁船より賣  
 渡せり島夷小兒を産して母乳の乏乏時を  
 粉まよしを煮し液汁とふし以代膏とつへ  
 り凡一斗入程一袋めて價まドルヲル也  
 一葱あま冬十二月頃より平坦の畑に植付夏三  
 四月に堀取青葉を去り根はと、蕪乃如キ玉  
 みて具を洗ひ乾し圍ひ年中の食用と凡を

并武三合程にて價まドルヲルあり

一春二月頃産もろちを造り四月頃實り日  
 乾し粒よして圍ひ常の食と以實葉とも内地  
 乃瓜と同湯煮してあきを食す  
 一西瓜<sup>スイカ</sup>形ち長く其大あるもの長亦尺五六寸圓  
 り四尺六七寸もあるへ其味の美あふ事内  
 地の瓜より及ぶまにあらに冷殊に多し其種子  
 ハ先年米利堅海軍の將ペルリッ持渡り由  
 あり一トルニ付數三ツあり内地の西瓜も作  
 りし形味とも異あささきとも其の地の瓜

ニを遙子芳きり

一 枕瓜是を大ありといへとも味毒子して甘み

サし由地の毒も七大ニ芳きり

一 きうり何り由地の品と同し一時子<sup>熟</sup>して盛

至甚大短し

一 大根を砂地故に短少しして股をおし味ひ苦

く甚大悪し多く造らに我持わたりし種もて

作りし子地味のおきまよて内地と云ふ

に志あり老の時候もて霜雪無由へ忽ち華

を生し好

一 蕪是迄あきまふ造とも前減し内地と不交

向來当島の所産と稱きり

一 ヤームと唱ふる一種の芋何り形ちつくね芋

の如くよして味ひ芳きり是山中にも自生

ありて大なるは徑長尺五寸位も有へ

一 夕口と唱ふる芋あり是は澤或は谷間の水中

に造り根を取喰ひしを莖を七八寸は切て

泥中へ挿し置は十二三ヶ月を種く根子一ツ

の芽をおし子を生さる我里芋といふ芋の親

のよく其味美あはといへともお一つの食



用子豆分莖葉とも形ち里芋の如し  
 一唐あす何連とも形ち長く一尺より甚尺五六寸或尺も及ふへし方サ一尺六七寸廻りて夕飯のめし味粗みして内地所を大に芳れりハツニ付價一ドル有るあり  
 一茄子是も此島に多き品ありし我持渡里しりて所産とあ連り是も春の翁付りて翌年乃春まで実をふして括る事ふし四季絶へに食用し之も殊に地味に相應せしと見へたりを茄子の地味の軟しきを好むものあり

一麦もまたあきまありしり選り減みし忽ち莖穂を生し熟せり去りし山嵐の為し害せら連て収納せしよく年帯を可也食用し是るあしん  
 一米ハ必すよく生熟せしりいまた種類をに選り懽かりあ連一年に多分も収納あるへし  
 一産からし是当島固有のもの見へ畑となく山野となく自然に生し方サ四五尺もあり絶一に實を結ぶ幸み多あり  
 一甘蔗甚だ多く味ひ美しりて且つ方サ五六寸

一 廻りも玉り國地也大に美ありいよと製作  
経験せざるハ亦遺憾の一ツあり

一 芭蕉常子花咲実を結ぶる実熟をれハ島夷是  
を珍業として食に味亦美あり製作したる餅  
の如くおナくと唱ふ諸邦頗る多し

一 パイナールとつふ一種乃ち我<sup>ヲモト</sup>万年青の  
形子熟をり茎根子実を食に具形ち凡長五六  
寸廻り八九寸もして皮ハ魚鱗の如くあり葉  
亦<sup>モ</sup>道ハ黄色をおふ味美しして液汁あり梨子  
乃如く國子も有よし亦<sup>モ</sup>道ともいふと見ざる

夏あり鳳梨片唱ふ

一 フレンジといふ一種の菓物あり南袋澤とい  
ふ夏の考を逆上り行ハ山腹子七八株を外宮  
高子数株あり秋九月より十一月の間子葉は  
形ち橙子の如くありて味ハ九年母より遠子  
結れり是西洋人尤為子珍業とす亦物もて実  
多<sup>ク</sup>富<sup>ク</sup>第一の菓物なり

一 橋子の類あり形ち長くして三四寸方さし亦  
三四寸より五寸あり一酸味ありて食をへる  
らに我柚子子代り又橙子酸子代り用さる

一文久ニ戊年秋八月渡路を一医所阿部将翁と  
いへるもの持帰りて翌亥年夏の以て培養  
せし菜子木の内金銀合款巴豆の於時子繁  
茂して花実をあたへ我此路を去るに多し向  
来路の差ありんものハ此菜子木故保産繁殖  
を此とあゆしと島子有しておけり其果種  
左に通り

- 東京肉桂本 生育 龍眼肉 是ハ丈以
- 漢種綿紗本 生育 黄耆本 甘艸本
- 生省藤本 生育

木香本 延胡索本

土茯苓本 漢種杜中本 生育

肉豆蔻本 吳茱萸本 生育

金合歡本 銀合歡本 生育

巴豆本 椒攬本 繁茂

使君子本 木密相本 生育

雲州慈相本 九年母本 生育

養老梅本 阿ん本 生育

夏桃本 前同柿本 生育

紅本 梨子本 生育

大實林橘九本

大實拓橘九本 半生

葡萄九本

柀ル

金柑三本

生育

真竹江南竹九本

胡摩竹五株

生育

龜甲竹五株

生育

蒲桃三本

柀ル

孟宗竹五株

生育

右之外教果之跡菜類のもの持海と雖とも  
良者あく耕耘培耨をつと先日向身進く経験  
して其巧を得ハ重寶なるもの多かり過け  
きといふまゝに其味あつて此地を去ハ遠  
嶺少かりはあ過

一 飲水ハ家毎子井を掘水ハ僅子にて得ハ一沙

一 兼更ハあハ又溪流ハ炎暑之節濁りハ事あ

一 汚きとも掘掘の井ハあらききハ冷水を得

一 阿とらに予ハ輩此路ハ久ハく在るハ五月

一 海國の物物所中とて水立ハ海濱陸ハ着

一 ても冷あら水を煮ハ何物ハ此味ハ及ハ過き

一 也と互子語りハ子と知るハ

一 食糧ハ崎氏海潮を酌ハ大壺子て煮ハ遠送り

一 故子細末あつてハ甚暑あり大龜を塩漬

一 して貯へるハ塩多かりききハ畜産ハあ

きゆへ鯨漁船より買取れ置あり

一島夷食料の爲に何處も鶏豚并にバリケンと

唱ふるを畜ひ置き産殖せしむ鶏卵一ドル

ラに付敷振式等々しく在島一日の

恩を多事少切らるより終日一ドルに

付二十四日養豚に至りバリケン飼ふて

一ドルより一ドル半鶏三羽みて一ドルラ

豚ハ小あるハ或ドルよりして大あるハ五ド

ル或ハ七八ドルニも及ぶ我輩も又鶏豚を飼

たきて文久三年春の頃ハ鶏三百四五十羽に

置  
字  
取  
カ  
本  
ノ

も及ぶぬれハ卵も亦之しうは食用に足り

しあり此時立拂の節ハ鶏豚とも其俵に放ち

けハ後年登警殖あふ過し尤此島夷にも亦

して三五年乃間山にあり豚を糶をへうらに

後年の爲に自然生の野猪母畜乃如くあはへ

しと約し置あり

一以前より山中に鶏多く糶しきて食用とに此

鶏山中に産して自然に群集せしむるハ鶏

を多事雑子あとのと一故に容易に糶し得難

し

司  
務  
当

一鳩あり國地の鳩より里ハ大よ一七尾一味ハ美  
那らに美味あり

一ハよ多く散り玉よて赤と赤ハ暫時子四五  
十羽を獲一ノ摘棹よても容易ヨ得る那り四

五月頃を多一  
一母鳩ハ野猪多く是豚の野生と一ものありて

猪程程ハ何ノに獺犬を連りて容易子獲  
一予輩巡見の常四頭を待たり味ハ豚ハ美

ラに野生故ラ猪の如く牙を生あるもの有り  
一野牛ヤウと唱ふら一程の羊あり諸島とも山中

子養をり野牛畜兄弟ハ言多一畜身毛を糲  
て食用とに臭氣ありて日本人ハ食さ其地

山中ハ養に畜獸何りやつへせも甚たサ一程  
獸を畜へてあ一山とあく野とあく猫と畜ハ

甚た多一  
一全島海濱ハ大亀シヨウガキ多一畜氏是を食用乃第一

とに春二月頃より五月頃迄を雌龜を待  
中子綱よて礎を附足成繫き浮へ置た雄龜来

りて忽ち急水リ時クヌ一私よて漕か一如  
此し六七寸乃丈夫あら鑊を亦三間程乃長柄

を付て着ひ居る雄龜の首へ引付けて引上  
る事容易あり一疋の雌龜を繋ぎ置ハ一日子  
雄龜五六頭を得りあり又五月頃より七八月  
頃より雌龜子を産むる為子海濱の砂場へ  
日乃没するを待て上里来るあり夫をお返し  
て御向子お坐ハ其儘りて却くあ夫已に捕獲  
する事容易一其生後極免て遊鈍の物にして  
人を囁む事おく是を塩漬或ハ池中へ飼ひ置  
て年中の食用に満つる迄乃價三ドルラニ  
と賣酒とり大サ甲徑亦尺五寸位より四尺位

子及び貫目亦十四五貫目位より六十貫目位  
よ及ふ故子お返さる微力のものハ一人おて  
おし難きものあり島民古の油を取る年中の  
夜燈弄子食用にも是よ古の腹甲を都下りて  
ハ鬘甲細工に造り目方寸目子付當時價銀壹  
匁五匁位よりおきおとぬ位にもおしハ雌  
龜の甲ハ厚一と光澤も亦ハ一足より腹甲  
斗り三四百日程ハ何おへハ一程の鬘甲と  
鳴ふとあり是ハ甚大稀少ハ其肉ハ食用  
子に只甲のみを取きり甲の厚サ亦分位よ

リ三分位子及び島民を以て櫛子遣ふもの  
あり合せしむるに其價もて割り造まり光澤を  
ふ知事あり大サ前の大龜と同  
一魚類甚だ多し船崎の垂釣子垂釣の鱈を漁る  
大魚を漁んと欲をハ十五六尋ト我十四五尋  
の深可あり小魚ハ六七尋位の多して其可  
りハ一つ甚しき礎子て舟を留め釣るあり岸上  
ありハ獲れカサハ船行こる魚多き所を撰む  
ハ一海底岩石の場所を必し魚多し海地子ハ  
居らば此遠海水深くして其拾得以下の所を

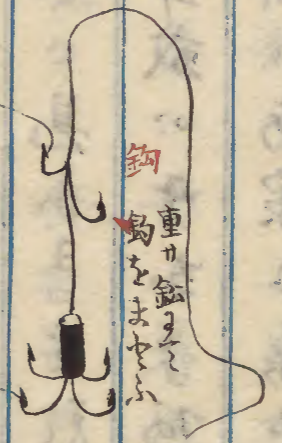
門  
新  
嘗

海底の遊魚解明子見ゆるあり魚類甚多しと  
雖と異魚多く都下の魚類と異ありきハ只  
黒鯛がとわつを切ると大樽等終り五六種のみ  
りて其他多くハ見あきなき魚あり海鰻と  
小至りてハ耳或ハ牙ありて其らハき形  
乃ちの多し一鯛ハ海濱に居る鱈或ハ谷川子手  
長海光多くあるハ是を用ひて釣又釣得る  
魚を割み用ひても可也釣ハ大サ一寸位ト  
三四寸位トハおろふ寸位乃釣ありハ大小  
共子然りて便之此物ハ入港の鯨魚と買取

門  
新  
嘗



送り糸ハ或三分廻りの麻の金引糸之亦島民  
 ハ左の圖の如く鉤を寄せて捲へ釣るもあり  
 是又便宜也乍去海底岩石を此火煎りて釣を  
 失ふ事多し



此鉤ハ鉤ヲ付ル

此鉤ニテ魚ヲ引掛ルナリ

一海濱白砂子居る嶺ハ徳島濱白よ一形ち川  
 蟹ニ似多れとん豆長く体細く夜中穴より出

一 乙群集して沙場を走る其疾き事翼子て飛可  
 如し其他川嶺ニも甲乃大サ五寸も及ぶあ  
 りと嶺之形委ちるに海嶺ニも國地と形ちの  
 遠くろ嶺數あり

一 大ある處老あり兎島の南海岸子ト父島  
 の濱ニ向いたるまに洞穴あり是を海老穴と  
 名づく此洞ハ乾潮の節玉りて岩石の隙子群  
 集ちるを捕獲する事容易あり其外在て洞穴  
 の岩屑多し多く懐深口も多し其大サ頭ニ尾  
 子至りて身尺子及い味ハ甚美あり都下伴勢

海老と鳴り魚と柔卵らに色あしくしる子  
紫色を交ひ二三足と調製を肉のみよて一  
尺の皿に盛り飾り  
一山間の谷川に幔多く殊に大なるは六七  
寸廻りより長三尺位に及ぶ皮肉堅くして  
味ひよろしうらに赤長海老と鳴り魚海老  
多し容易に古くは得へし

一全島海濱に蛇ひ蛤の類あり柔村の沙濱に蛤  
螺浦迄の蛇の種を前々海軍繁殖をへしと思  
はるいよと地事を施しに暇ありたりし時

一全島周囲の海濱に凡て海苔を生を以て故に海  
苔に吹寄る芥等更に赤し種浪の節は種々乃  
魚を吹上ると見え乾きて死し魚魚海濱に  
石の隙に多くあり時ありて海綿を見らると  
有り

一岩石の隙に免り皿と名付て徑寸位を寸  
寸五分位の形ち釜の如き貝あり赤卵ち蛇ひ  
の如くよして大サ寸位より寸寸位の貝あ  
り又田子し乃如くよして大サも亦同一位の貝  
有りいつても取喰ひし味ひ知とく美味

ありしヤコ貝あり食しかこしを柱のみを  
とりて食す水ハ甚と美味なり  
一全島中凡そ蒼蠅の多き事實ニ恐るへし海濱  
を殊ニ多し二月頃よりして七八月頃までハ  
魚肉を外臭氣あるもの堅た右に置へりしに  
故に庖厨并に厠等<sup>ニ</sup>居室を離して汲くへし  
固あし出し置ハ暫時の内子子を殊して腐敗  
せしむ食事の節鼻口ニ入烟草を吞ハ烟を追  
ふく満旬へ来り或を硯の臺を嘗乾し薑汁の  
如きハ忽ちしそ希り亦小体の蟻多くよく室

門  
和  
書

中ニ以りて人膚を嚼み亦油虫多し是ヶツク  
ルと呼ぶ櫃中ニ入りて物を喰ふ事衣類穀類  
何れもふらに損傷を乞といふ事あり長サ寸  
許に西分山野草中にも多し  
一此島の樹木ハ幾んど不作りても更し浮ふ事  
なく忽ち水底に沈免りいつまも堅硬あるら  
故あり  
一全島固有の草木類内地と異同を左に掲ぐる  
莖幹の形を岡部筑前守の医師より一時海  
島に井口榮春といふもの図寫して持歸る

門  
和  
書

りあふハ此者ヲ因リテ草木乃形状華実を問  
ふへー品類の畧左の如し

異産之分

椰樹

ペンバーム

即野芭蕉  
と名付く

蒲葵

カヘチ

ウワロイ

即ちタコノ  
木と名付く

トマナリ樹

マリイ樹

ハウ樹

即濱桐  
と名付く

シユカキーン

タコノ木の  
蔓生の也

プツリン

樹

パイニアツプル

即鳳梨  
と名付く

濱ちた豆

ウリノ木

母島子  
多ク

抄擺

即ヘゴ

檸檬

レモン

橙

シツトルウン

濱狗杞

此外不審乃物五種

和産子サリ英リ殊分

夕口芋

甘藷

番椒

葱

大蒜

南瓜

ハマヒルガラ

玉蜀黍

トヘラ

文殊蘭

ハマラモト

ウバメカシ

短生龍葵

薊

大葉白華

良薑一種

クマタケ  
ラン

山梔子

柘

ヤマゲワ

天瓜

大葉酸醬

甘藷

杜葦山

イッセン  
リヤウ

土萋藤

田瓜

胡瓜

甜瓜

ハクララン

シダ

芭蕉

無花果

タマラン

キ、ヨウラン

奇 奇 奇

木樓子樹

白英

和産子同き分

菜

大根

酸醬草

午、グサ

薺

子トリ草

烟草

馬齒莧

ワル菜

蔓荊

天仙果

雲寶

松葉蘭

ナギラン

叙子股

野シバ

山スゲ

岩ヒバ

天竺桂

苦棟

水蠟樹

黄槿

冬葵

椿一種

ムク根

ハナヤスリ

冬青

羊蹄

ソクツ

木犀

馬鈴薯

糊獺眼

蚊母木

菘蓂

ナンバンキセル

ヒヤクシン

芥

柯樹

杜中一種

モツコク

紫茉莉

アシタ

動類の分

野羊

猫

田犬

大蝙蝠

豚

伏翼

水鼠

鹿

鼯鼠

鷗

鳥雅

白鷺

鷺

白頭鳥

鷄

大ルリ鳥

千トリ

洋鴨

鷹

鷓鴣

グベ  
鷺鷥ニ似テ背毛黒  
褐色能ク海中ニ今  
魚ヲ取ル

未詳ノ小鳥

母島ノ多ク有メジロニ似テ  
頬邊翼端黒色ナリ

附言

小笠原島の父嶋の港に入らんとき舟  
一ノ心得へきハ港口乃暗礁あり是淺口中  
間ニ在りて干潮よして風波ある時ハ見る  
能ハズよくハ心取用由へハ港口西ノ向へ

ハ其南の方野牛崎と唱ふらき岸涼き  
切迫して入港す過し中央より北の方ハ暗  
礁多し且碇泊の場所も忽ち碇鎖を切る事  
あり是港内中央より南寄の方あり北より  
また大村といふ澳を去る事二町程の事  
て可成丈港の奥へ入りて碇泊せハ其患  
ゆる魚一既ニ我船の老一之ハ海島を感  
臨艦も碇泊を其夜半に鎖りを掲り切る  
碇を失ひ多り亦我嘉永六五年亞國乃水師  
提督ヘルリの来り一軍艦も此港に来りて

舟務

破を失へりといへり

附て曰

越後國蒲原郡村松濱百姓平野齋菴儀鯨  
漢の義官許を得て外國船を買入所持せ  
し右船は在りて文久三亥年正月江川  
右郎左衛門鉄炮方子附中濱万次郎船長  
を蒙り鯨鯨を年々とらき其便船を以て小  
笠原島へ米麦其他諸品を持渡り諸品陸  
揚の上端船は亦立用意せしめひき進ハ  
同四月回港也帆近海おめて鯨二尾を獲

て再び回港は互度り同五月帰帆の折柄  
破を捲揚し其船の鎖りよりハ倍して  
大あら鎖り五十尋程は共子付し破りと  
共子齋菴船乃破り掛りて引揚揚たりて  
大あらとて海底に沈みて回ひたるさま  
を以て年数を推測見ると先年ペルリの  
集多ら軍艦の失ひし大破り海らひあら  
るへしとおもわらる是持帰りて軍艦所へ  
献し多りといふ是一奇事故也しおきぬ  
一予此船に在り中各國の鯨漢船其他の船港外





量三十二貫目程に當るといふ

一 外國鯨漁船乗組乃れ其の給金ハ年月よりて定むるより何れに捕鯨の多サよりて是を渡すといふ

鯨油百八十樽乃一 水主一人

鯨油八十樽乃一 楫取一人

同四十樽乃一 第三等按針役一人

同三十樽乃一 第二等按針役一人

同二十樽乃一 第一等按針役一人

同十二樽乃一 船長一人

但考摺ハ一バレル也

一 我輩此島に在るを以て内子入港乃鯨漁船左に通過民食に餘るる魚を船へ賣給して衣服若物と交易せしあり是乃に入港船の何れを希望せらる由へんよりて又鯨漁船も本國より種々乃布衣或ハ小道具若物を贈へ来りて常々小島へ立寄り高價に賣渡すを鯨漁船の業の如くおとすといふ

一 亞米利加鯨漁船

一同國船

戊午二月廿八日入港神奈川港へ可考  
二月江戸へは用状托し遣し船名フルデー  
同年三月六日入港同十日出帆船名  
子ヒイ一船長サハント

一同國船

同年三月十日入港同十四日出帆船名メヌチエセツ  
船長ヲ子ルヒービリンゲ乗組人数三十二人

一同國船

同年四月廿九日港外迄来り船名  
フリフキアンジー船長トルニー

一同國船

同年五月朔日入港同十五日出帆船名フォーウ  
イングトン船長セーセルゼンクス人数廿五人

一同國船

同年五月廿九日港外迄来り船名  
ホープロ船長ギフワルト

一 サントウ井ス  
ヲホー附属 鯨獵船

同年六月十五日入港口廿三日出帆船名ロイルア  
船長ラス人数廿六人四月十六日ラドロ子ン島  
出帆ニテ来ル

一 亞國鯨獵船

同年七月十八日入港八月三日出帆船名ホープロ  
船長ギフワルト人数三十二人再度

一 魯國蒸氣運送船

同年十月廿二日入港十一月四日出帆船名サントウ  
リス船長ステンロース人数五十六人ピイトルポー  
ルス船長崎へ相越書状托し遣ス

一 サントウ井ス 鯨獵船

同三年二月十三日入港同十九日出帆船名バルベスト  
船長ロウロント人数三十五人廿二日前ギヤム島  
出帆ニテ来ル

一 亞國鯨獵船

同日サントウ井ス船の船長ト同船ニテ  
来ル船名ブレゼンセー船長フエルブル

一同國船

同年三月十五日入港同廿日出帆船名ニウベトウ  
トウナルト船長ナイ人数三十三人南アメリカの  
内トムベスノニケ月半前出帆ニテ来ル

右船長何れも後更となり来り日本より此崎

開拓を以て欲ひ向來諸所を指図り船中の欠

乏所を助成り或ハ遊女おとよても阿らハ

此崎をのんおろへ一此近海鯨漁船航海教多

あまとも薪材を差支る船のみ入港を以て

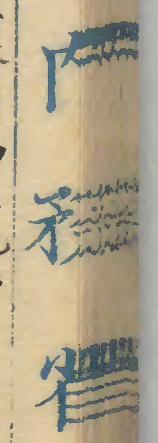
その他ハ立寄らざとも諸欠乏所を補ふに足り

かハ悉く入港をへといへり鯨獵船ハ一々

年或ハ一々年半程も地方へ上陸をぬもの少

かかぬよ一語たり

右附録を予在場中 文久元年辛酉十二月  
同三年五月に至る 見聞

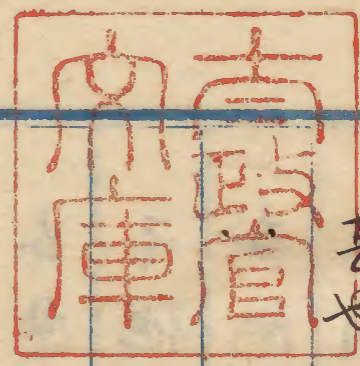


内務省

あーたる事又自らの事を記し多り後来亦  
開拓の事起りて若し用ゆる時を待ハ予の幸

甚也

小花作之助花押



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

明治十五年九月

校合

阿部柳助

鈴木行一



内務省

門  
第  
一



陽明十一年五月

陽明十一年五月  
陽明十一年五月

